

# 力学

奈良県立大学 地域創造研究センター  
キックオフ連続シンポジウム

日時=2021年9月10日(金) 13:30-17:15

会場=奈良県立大学 commons棟 オープンスペース および オンライン

参加=無料 主催=奈良県立大学 地域創造研究センター

アクセス



公共交通機関でのご来場にご協力ください

## 参加方法=

会場参加人数は70名となります(事前登録制・先着順)。参加ご希望の方は、奈良県立大学 地域創造研究センターまで、お名前、所属、参加人数、連絡先を明記の上、ご連絡ください。本シンポジウムは、YouTubeでライブ動画配信も行いますので、オンラインでご参加の方は、以下のURLにアクセスしてください(事前申込不要)。

\*オンラインでも質問・コメントを受け付けます。 \*新型コロナウイルス感染症の状況などにより、内容を中止・変更する場合があります。

<https://youtu.be/1o1Mu-QBRN8>

申し込み・問い合わせ先=

奈良県立大学 地域創造研究センター Tel.: 0742 93 7022 (平日のみ) E-mail: rrcr@narapu.ac.jp

オンライン参加



## 進行

13:30-13:35 開会の挨拶 (奈良県立大学学長 浅田尚紀)

13:35-14:00

問題提起

### 今、撤退的知性の必要を問う

14:00-15:00

応答講演①

### 後退戦のために (オンライン)

後退戦の戦い方というのは、たぶん近代の日本人が最も不得手とするところだと思う。後退戦の要諦は「被害を最小化すること」「手持ちの資源の潜在可能性を最大化すること」にあるが、それ以上に重要なのは、その作業を冷静に、できたら微笑みながら遂行することだと思う。たいせつなものを守り、豊かなものを育てる仕事なのだから、本来楽しいものであるはずなのだ。

15:00-15:30 ディスカッション①

15:30-15:45 休憩

15:45-16:45

応答講演②

### 資本主義撤退のプロセスと ウィズゼロ金利時代の中心概念 (対面)

資本には二つの機能がある。一つは迂回生産手段で生活水準の向上に資すること、もう一つは危機にさいして国民を「救済」すること。saveには蓄えるという意味のほかに「救済」という意味があるので、グローバル化と新型コロナで広がった格差を是正する必要がある。ゼロ金利が定着すると、近代社会の中心概念である「私的利益の追求」はもはや社会的価値がなくなり、21世紀の新しい中心概念を考える必要がある。

16:45-17:15 ディスカッション②

力学の転換——地域創造はアフターコロナの道を拓くか？

パンデミックの下、これまでのコミュニケーションのあり方から撤退を余儀なくされ、働くことや学ぶことの本質を考える必要が生まれた。これまでの当たり前をカッコに入れ、その意味を再考すること、これがパンデミックにおける唯一の積極的な側面かもしれない。では、奈良県立大学地域創造研究センターは何を考えるのか？それは「力学の転換」である。コロナ後の世界で、力の流れをどのように変え、どこへと向けていくのか。これが、連続シンポジウム全体のテーマである。

第1回は「文明的転換」を取り上げ、シンポジウム全体の総論とした。第2回はアフターコロナにおける「大学のあり方」を、第3回は「観光のあり方」をそれぞれ探究する。第4回は都市と農村における「創造的撤退」を取り上げ、地域創造の今後を模索したい。

問題提起

## 堀田新五郎

(奈良県立大学地域創造研究センター長)

応答講演①

## 内田樹

(神戸女学院大学名誉教授・フランス現代思想)

応答講演②

## 水野和夫

(法政大学教授・経済学)

# の 転 換

## 第1回

### 文明史的転換期における撤退的知性——成長神話を越えて

失われた10年は、失われた20年になり、30年となった。いったい、いつまで失われ続けるのか？日本は、急速な人口減少や環境激変など、多くの困難に見舞われている。これまでの価値観や生活スタイルを改めない限り、いずれ大変な事態が訪れるのではないか。大切なことを持続させるために、我々はまず撤退を学ぼう。撤退は敗北ではなく、知性の証である。